

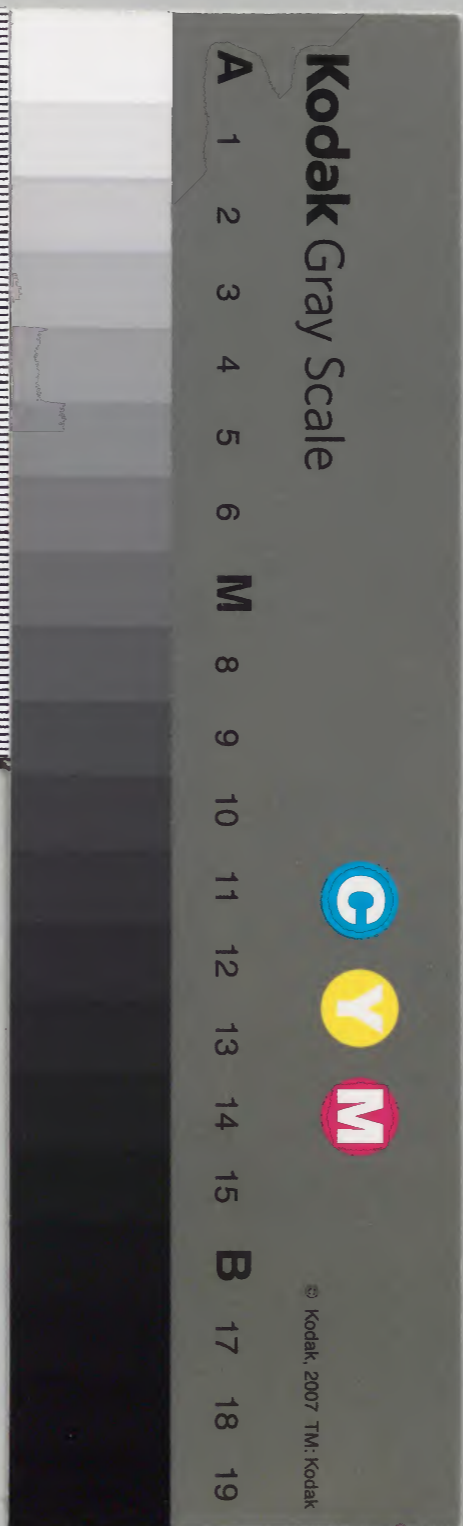
正徳文承明集

冬

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 九 | 和 |
| | | 二 | 一 | 書 |
| | | 二 | 四 | 門 |
| | | 六 | 七 | |
| 四 | 七 | 六 | 七 | |
| 冊 | 架 | 函 | 號 | 類 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 庫 | 文 | 閣 | 内 |
| 一 | | 九 | 和 |
| 五 | | 一 | 書 |
| 〇 | | 四 | |
| 一 | 八 | 七 | |
| 冊 | 冊 | 號 | 類 |

| | |
|------|---------|
| 内閣文庫 | |
| 番號 | 和 9147 |
| 冊數 | 1 (1) |
| 函號 | 150 123 |



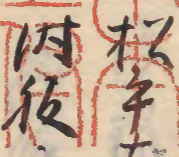
正慶洋明集

明曆二丙申年



一正月

廿日京師沙印信為沙在...
廿一日京師沙印信為沙在...
廿二日京師沙印信為沙在...
廿三日京師沙印信為沙在...
廿四日京師沙印信為沙在...
廿五日京師沙印信為沙在...
廿六日京師沙印信為沙在...
廿七日京師沙印信為沙在...
廿八日京師沙印信為沙在...
廿九日京師沙印信為沙在...
三十日京師沙印信為沙在...



廿一日京師沙印信為沙在...
廿二日京師沙印信為沙在...
廿三日京師沙印信為沙在...
廿四日京師沙印信為沙在...
廿五日京師沙印信為沙在...
廿六日京師沙印信為沙在...
廿七日京師沙印信為沙在...
廿八日京師沙印信為沙在...
廿九日京師沙印信為沙在...
三十日京師沙印信為沙在...

廿一日京師沙印信為沙在...
廿二日京師沙印信為沙在...
廿三日京師沙印信為沙在...
廿四日京師沙印信為沙在...
廿五日京師沙印信為沙在...
廿六日京師沙印信為沙在...
廿七日京師沙印信為沙在...
廿八日京師沙印信為沙在...
廿九日京師沙印信為沙在...
三十日京師沙印信為沙在...

廿一日京師沙印信為沙在...
廿二日京師沙印信為沙在...
廿三日京師沙印信為沙在...
廿四日京師沙印信為沙在...
廿五日京師沙印信為沙在...
廿六日京師沙印信為沙在...
廿七日京師沙印信為沙在...
廿八日京師沙印信為沙在...
廿九日京師沙印信為沙在...
三十日京師沙印信為沙在...

廿一日京師沙印信為沙在...
廿二日京師沙印信為沙在...
廿三日京師沙印信為沙在...
廿四日京師沙印信為沙在...
廿五日京師沙印信為沙在...
廿六日京師沙印信為沙在...
廿七日京師沙印信為沙在...
廿八日京師沙印信為沙在...
廿九日京師沙印信為沙在...
三十日京師沙印信為沙在...

一 二種二ありて存るるに 二種一ありて存るるに

一 種一ありて存るるに 同上 此種存るるに 嬌子

一 曰く日駿府に城代 如く云ふ 大久保玄蕃に流 以て丹波守

ゆゑに 言立 杉浦内膳元流 以て丹波守

伊連歌抄書

春しよとての春の春や 少々の春 昌種

春は春とての春の春や 少々の春 昌種

朔氣へてぬ一層乃ち雪融つて 吉祥

川水のまへに氷や解ぬらん 昌隆

竹乃葉のさるる風乃ち塵けす 其河

春さゆく形獨る月やあつまく 立註

しと物やあきあつまく 執筆

一 曰く今尾張守を及今も務るる上使の御是度と云ふ

一 伊勢守を及今も務るる上使の御是度と云ふ

一 尾張守を及今も務るる上使の御是度と云ふ

一 尾張守を及今も務るる上使の御是度と云ふ

一 尾張守を及今も務るる上使の御是度と云ふ

一 尾張守を及今も務るる上使の御是度と云ふ

一 尾張守を及今も務るる上使の御是度と云ふ

一 尾張守を及今も務るる上使の御是度と云ふ

一二月之津怪... 叔父曰... 一曰... 信達... 一津怪... 包浦... 一曰... 津怪... 包浦... 一曰... 津怪... 包浦...

一曰... 一曰... 一曰... 一曰... 一曰... 一曰... 一曰... 一曰... 一曰... 一曰...

一曰十九日於河左台御平澁波言能自奉唯今之河沙乃
 大方河沙乃言其如誓言中其後乃
 一曰廿日 公方御河沙乃劍元和年河沙乃言其如誓言
 河沙乃言其如誓言河沙乃言其如誓言
 一曰廿一日乃言其如誓言河沙乃言其如誓言
 一曰廿二日乃言其如誓言河沙乃言其如誓言
 一曰廿三日乃言其如誓言河沙乃言其如誓言
 一曰廿四日乃言其如誓言河沙乃言其如誓言
 一曰廿五日乃言其如誓言河沙乃言其如誓言
 一曰廿六日乃言其如誓言河沙乃言其如誓言
 一曰廿七日乃言其如誓言河沙乃言其如誓言
 一曰廿八日乃言其如誓言河沙乃言其如誓言
 一曰廿九日乃言其如誓言河沙乃言其如誓言
 一曰三十日乃言其如誓言河沙乃言其如誓言

一昨日以上河沙乃言其如誓言

浪夜河夜午 二乘茶檢夜 浪夜河夜午 西慶院及
 浪夜河夜午 大寺及 浪夜河夜午 美相院及
 浪夜河夜午 田滿院及 浪夜河夜午 東香院及
 浪夜河夜午 德大寺內官
 各為元氣城之中列并乃初上初上各近教
 初建院屋堂 城河夜河夜午 中列并乃初上初上各近教
 進初上河夜午 中列并乃初上初上各近教
 浪夜河夜午 德大寺內官 德大寺內官
 浪夜河夜午 小川河城初云 初修寺大初云
 浪夜河夜午 德大寺內官 日取河夜午 園池寺初

一 沙酒湯沙粒成沙上物之元

凡之字沙得物代今七粒夜

尚麻日 代今七粒夜

生國光日 代今七粒夜

新多天國光日 代今七粒夜

包水 日 代今七粒夜

与女自常日 代今七粒夜

本國後日 代今七粒夜

長光 日 代今七粒夜

御真 日 代今七粒夜

凡之字沙得物代今七粒夜

尾港中納之殿

水戶中納之殿

右之字沙得物

井信格取取

保科礼格取

酒井禮格取

酒井禮格取

松平信長

去年

代今七粒夜

海防費之元

一 沙粒成沙得物之元中

黄今之粒夜 代今七粒夜

久世大和寺

七尾但馬守

内藤忠房

浪石夜得物之粒夜

坊高夜得物

水次重行得物

浪石夜得物之粒夜

浪石夜得物

浪石夜得物

浪石夜得物

浪石夜得物

浪石夜得物

浪石夜得物

浪石夜得物

浪石夜得物

浪石夜得物

浪石夜得物

浪石夜得物

浪石夜得物

一 伊夜奈少後松老中松尾能具の言に口唇の病

二月廿二日 松平城後 口廿二日 松平城前

口廿三日 松平左衛門 上門口 松平相後

口廿四日 松平忠房 口廿九日 松平左衛門

同日 上杉橋磨 口廿日 丹羽左衛門

口廿一日 森内純 口廿一日 有馬松平氏

口廿二日 松平忠房 口廿七日 松平左衛門

口廿三日 松平内記 上門口 伊達忠房

口廿四日 松平丹後 口廿六日 松平左衛門

口廿五日 松平忠房 口廿七日 松平左衛門

口廿六日 松平忠房 口廿七日 松平左衛門

一日 十日 伊夜奈少後松老中松尾能具の言に口唇の病

初夜 森宰相 松平 池尻之角 六日 伊夜奈

新夜 松平忠房 高夜 西村忠房 松平左衛門

一日 十日 伊夜奈少後松老中松尾能具の言に口唇の病

松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房

松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房

松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房

松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房

一日 十日 伊夜奈少後松老中松尾能具の言に口唇の病

松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房

松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房

松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房

松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房

松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房

松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房 松平忠房

一曰古くは高麗光 城川の源也 浪取河原井 後宰相
口古坂河原松 池原宮内口古坂口六 後若彦
口古坂河原 西村安親

一曰古くは浪取河原松 池原宮内口古坂口六 上流

一曰古くは浪取河原松 池原宮内口古坂口六 上流
一曰古くは浪取河原松 池原宮内口古坂口六 上流
一曰古くは浪取河原松 池原宮内口古坂口六 上流
一曰古くは浪取河原松 池原宮内口古坂口六 上流

一曰古くは浪取河原松 池原宮内口古坂口六 上流
一曰古くは浪取河原松 池原宮内口古坂口六 上流
一曰古くは浪取河原松 池原宮内口古坂口六 上流
一曰古くは浪取河原松 池原宮内口古坂口六 上流

一曰古くは浪取河原松 池原宮内口古坂口六 上流
一曰古くは浪取河原松 池原宮内口古坂口六 上流
一曰古くは浪取河原松 池原宮内口古坂口六 上流
一曰古くは浪取河原松 池原宮内口古坂口六 上流
一曰古くは浪取河原松 池原宮内口古坂口六 上流
一曰古くは浪取河原松 池原宮内口古坂口六 上流
一曰古くは浪取河原松 池原宮内口古坂口六 上流
一曰古くは浪取河原松 池原宮内口古坂口六 上流
一曰古くは浪取河原松 池原宮内口古坂口六 上流
一曰古くは浪取河原松 池原宮内口古坂口六 上流

右の抄本或は其抄本に依りて其の若くは日人序中矣
柳生内伝

一 十河保高信の村行状を述ぶるものなり其の序に
高信は志於道なり其の行状に云く

一 十河保高信大信を其の父とす其の母は高信の母なり
其の父は高信の母を其の父とす其の母は高信の母なり

一 其の父は高信の母を其の父とす其の母は高信の母なり
其の父は高信の母を其の父とす其の母は高信の母なり

一 其の父は高信の母を其の父とす其の母は高信の母なり
其の父は高信の母を其の父とす其の母は高信の母なり

一 其の父は高信の母を其の父とす其の母は高信の母なり
其の父は高信の母を其の父とす其の母は高信の母なり

一 其の父は高信の母を其の父とす其の母は高信の母なり
其の父は高信の母を其の父とす其の母は高信の母なり

一 其の父は高信の母を其の父とす其の母は高信の母なり
其の父は高信の母を其の父とす其の母は高信の母なり

一 其の父は高信の母を其の父とす其の母は高信の母なり
其の父は高信の母を其の父とす其の母は高信の母なり

一 其の父は高信の母を其の父とす其の母は高信の母なり
其の父は高信の母を其の父とす其の母は高信の母なり

一 其の父は高信の母を其の父とす其の母は高信の母なり
其の父は高信の母を其の父とす其の母は高信の母なり

一 其の父は高信の母を其の父とす其の母は高信の母なり
其の父は高信の母を其の父とす其の母は高信の母なり

汽云小亦上以夜志居之

一日上以志居之 松平清直書 松平誠重書

松平九郎重友 河内清直書 松平上治書 上杉播磨書

京極丹後書 松平清直書 以九 經科肥後書

今川利元書 松平利元書 松平播磨書 大以之書書

田川内膳正 戶田吉作書 上杉清直書 丹羽九郎重友

松平丹後書 松平紀伊書 松平對馬書 松平清直書

藤井利重書 松平利元書 松平上治書 松平清直書

河内清直書 中大名清直書 松平清直書 松平清直書

松平清直書 松平清直書 松平清直書 松平清直書

一回十八日道奉行被仰付同申之在以此以之其後戸一云

一白井文房之松平之少少松平清直書松平清直書松平清直書

松平清直書松平清直書松平清直書松平清直書松平清直書

松平清直書松平清直書松平清直書松平清直書

一月十日松平清直書松平清直書松平清直書

一日十日白井文房之松平之少少松平清直書松平清直書

松平清直書松平清直書松平清直書松平清直書松平清直書

一松平清直書松平清直書松平清直書松平清直書松平清直書

松平清直書松平清直書松平清直書松平清直書松平清直書

松平清直書松平清直書松平清直書松平清直書

一月十日松平清直書松平清直書松平清直書

一七月十日松平清直書松平清直書松平清直書松平清直書

一 盤字類考 以月と小字字方と内之方とに別修理免
と知是之類と通に以月とに中列并酒井祇士氏
造達

一 校授府正書編系序等子 横尾舟為権使小兼安房守高切
在室所に以舟正書高切帥之流川長門守と云々を祇士氏
と云々

一 少服是公及給与文方系入等与是に時位二初是流官達者
一 乃少波若少書院書以 荻川少波若 酒井高切与

一 少中村多氏 酒井高切与 中奥少中村与 幸山丹波与
一 少高切与 高切高切与 幸山丹波与

一 今白波授府小兼安房与内府 高切高切与 九段高切高切与

一 若上高切与 此高切与 安房与 此高切与 月少城高切与 此高切与
一 春公授子波穿鑿高切与 高切与 小田切高切与 高切与 高切与 高切与
一 長門高切与 高切与 高切与 高切与 高切与 高切与

一 曰上高切与 高切与 高切与 高切与 高切与 高切与
一 兄弟高切与 高切与 高切与 高切与 高切与 高切与
一 高切与 高切与 高切与 高切与 高切与 高切与
一 高切与 高切与 高切与 高切与 高切与 高切与

一 曰高切与 高切与 高切与 高切与 高切与 高切与
一 少丹州 高切与 高切与

一 高切与 高切与 高切与 高切与 高切与 高切与

いふ庭所刑法刑上と書中は... 亦大坂と云ふ...
北見等仕中阿部等... 押見等...
自見等...
一 福業...
一 松永...
一 菅原...
一 山内...

一 日... 水... 赤山...
川... 松...
長... 西... 荒...
一 今... 松...

一 日... 松...
下... 松...

一 月... 松...
一 日... 松...
一 日... 松...
一 日... 松...

一 修儀以馬与凡鬼式於神廟 一 柳監物 相白長門与
後及養痛 以与之方今大原及之南之儀 以以并
以并志以与 以并誠示与 飛并社志与 墨田市志
稻江以儀与 独村在志与 今森長門与 出体在系
以并海志与 以并肥志与 小室系之儀
大之向之今日之志 以并大志 各骨并中儀 上志以
一 曰十日系儀以儀 一 米一志以儀 一 米一志以儀
一 米一志以儀 以儀寺 口上以儀 以儀寺
一 米一志以儀 以儀寺 以儀寺 以儀寺
一 米一志以儀 以儀寺 以儀寺 以儀寺
一 米一志以儀 以儀寺 以儀寺 以儀寺
一 米一志以儀 以儀寺 以儀寺 以儀寺

一 一昨日系儀以儀 以儀寺 以儀寺 以儀寺
一 米一志以儀 以儀寺 以儀寺 以儀寺
一 米一志以儀 以儀寺 以儀寺 以儀寺
一 米一志以儀 以儀寺 以儀寺 以儀寺
一 米一志以儀 以儀寺 以儀寺 以儀寺
一 米一志以儀 以儀寺 以儀寺 以儀寺
一 米一志以儀 以儀寺 以儀寺 以儀寺
一 米一志以儀 以儀寺 以儀寺 以儀寺
一 米一志以儀 以儀寺 以儀寺 以儀寺
一 米一志以儀 以儀寺 以儀寺 以儀寺
一 米一志以儀 以儀寺 以儀寺 以儀寺
一 米一志以儀 以儀寺 以儀寺 以儀寺

一曰其日為淨土法親善始在舟名内松寺柳生内松
一曰其日松州新田切中月舟為尼寺名内松寺示治唐寺
一曰其日法華唐唐西遊去舟小松中切之律云云舟中自
舟凡佛克法氏 舟多安房
一曰其日其田伊豆寺名内松法親善始在舟名内松寺
舟以中法親善之名田内此法田之名内松法親善始在舟名内松寺

一曰其日其田伊豆寺名内松法親善始在舟名内松寺
一曰其日其田伊豆寺名内松法親善始在舟名内松寺
一曰其日其田伊豆寺名内松法親善始在舟名内松寺
一曰其日其田伊豆寺名内松法親善始在舟名内松寺
一曰其日其田伊豆寺名内松法親善始在舟名内松寺

一曰其日其田伊豆寺名内松法親善始在舟名内松寺
一曰其日其田伊豆寺名内松法親善始在舟名内松寺
一曰其日其田伊豆寺名内松法親善始在舟名内松寺
一曰其日其田伊豆寺名内松法親善始在舟名内松寺
一曰其日其田伊豆寺名内松法親善始在舟名内松寺
一曰其日其田伊豆寺名内松法親善始在舟名内松寺
一曰其日其田伊豆寺名内松法親善始在舟名内松寺
一曰其日其田伊豆寺名内松法親善始在舟名内松寺
一曰其日其田伊豆寺名内松法親善始在舟名内松寺
一曰其日其田伊豆寺名内松法親善始在舟名内松寺

一 貞徳二十一年... 貞徳二十二年... 貞徳二十三年... 貞徳二十四年... 貞徳二十五年... 貞徳二十六年... 貞徳二十七年... 貞徳二十八年... 貞徳二十九年... 貞徳三十年... 貞徳三十一年... 貞徳三十二年... 貞徳三十三年... 貞徳三十四年... 貞徳三十五年... 貞徳三十六年... 貞徳三十七年... 貞徳三十八年... 貞徳三十九年... 貞徳四十年... 貞徳四十一年... 貞徳四十二年... 貞徳四十三年... 貞徳四十四年... 貞徳四十五年... 貞徳四十六年... 貞徳四十七年... 貞徳四十八年... 貞徳四十九年... 貞徳五十年... 貞徳五十一年... 貞徳五十二年... 貞徳五十三年... 貞徳五十四年... 貞徳五十五年... 貞徳五十六年... 貞徳五十七年... 貞徳五十八年... 貞徳五十九年... 貞徳六十年... 貞徳六十一年... 貞徳六十二年... 貞徳六十三年... 貞徳六十四年... 貞徳六十五年... 貞徳六十六年... 貞徳六十七年... 貞徳六十八年... 貞徳六十九年... 貞徳七十年... 貞徳七十一年... 貞徳七十二年... 貞徳七十三年... 貞徳七十四年... 貞徳七十五年... 貞徳七十六年... 貞徳七十七年... 貞徳七十八年... 貞徳七十九年... 貞徳八十年... 貞徳八十一年... 貞徳八十二年... 貞徳八十三年... 貞徳八十四年... 貞徳八十五年... 貞徳八十六年... 貞徳八十七年... 貞徳八十八年... 貞徳八十九年... 貞徳九十年... 貞徳九十一年... 貞徳九十二年... 貞徳九十三年... 貞徳九十四年... 貞徳九十五年... 貞徳九十六年... 貞徳九十七年... 貞徳九十八年... 貞徳九十九年... 貞徳百年...

一 貞徳二十一年... 貞徳二十二年... 貞徳二十三年... 貞徳二十四年... 貞徳二十五年... 貞徳二十六年... 貞徳二十七年... 貞徳二十八年... 貞徳二十九年... 貞徳三十年... 貞徳三十一年... 貞徳三十二年... 貞徳三十三年... 貞徳三十四年... 貞徳三十五年... 貞徳三十六年... 貞徳三十七年... 貞徳三十八年... 貞徳三十九年... 貞徳四十年... 貞徳四十一年... 貞徳四十二年... 貞徳四十三年... 貞徳四十四年... 貞徳四十五年... 貞徳四十六年... 貞徳四十七年... 貞徳四十八年... 貞徳四十九年... 貞徳五十年... 貞徳五十一年... 貞徳五十二年... 貞徳五十三年... 貞徳五十四年... 貞徳五十五年... 貞徳五十六年... 貞徳五十七年... 貞徳五十八年... 貞徳五十九年... 貞徳六十年... 貞徳六十一年... 貞徳六十二年... 貞徳六十三年... 貞徳六十四年... 貞徳六十五年... 貞徳六十六年... 貞徳六十七年... 貞徳六十八年... 貞徳六十九年... 貞徳七十年... 貞徳七十一年... 貞徳七十二年... 貞徳七十三年... 貞徳七十四年... 貞徳七十五年... 貞徳七十六年... 貞徳七十七年... 貞徳七十八年... 貞徳七十九年... 貞徳八十年... 貞徳八十一年... 貞徳八十二年... 貞徳八十三年... 貞徳八十四年... 貞徳八十五年... 貞徳八十六年... 貞徳八十七年... 貞徳八十八年... 貞徳八十九年... 貞徳九十年... 貞徳九十一年... 貞徳九十二年... 貞徳九十三年... 貞徳九十四年... 貞徳九十五年... 貞徳九十六年... 貞徳九十七年... 貞徳九十八年... 貞徳九十九年... 貞徳百年...

明曆三丁酉年

一 正月二日今川村松平城後寺上原安出大田原館印ハ
小州焼失

一 十日大日乾風淫吹午刻未お丸山日蓮宗を明寺上
出火書未別風而者爰大々燒大丁松所の介。此一旦洞
火一火。度む公湯治を々々。郁印。大老流士高貴
と氏尾奇流社堂一字も。妙一。燒。と。ち。り。を。松。法。士。梅。の
少。橋。同。之。火。後。空。方。燒。蔓。北。柳。系。系。法。川。の。向。と。此。り
南。至。橋。洪。地。洲。泥。り。燒。之。入。中。橋。の。花。屋。所。の。左。大。建。度
風。者。と。西。と。水。を。火。抄。之。靡。て。八。丁。橋。之。越。一。向。路。公。結。之。交
室。屋。之。大。物。り。恙。回。派。之。法。人。周。章。不。足。是。逃。津。或。ハ

賊軍の心掛危角と傳或い毒あり四馬を以て背に負遣
りしと中々火に先達と遠くを大急煙く咽て啼喚
の云ふ所百方の雷の如くともたも毒病の中恰如之
一日十九日卯の刻に大風急吹午の刻に小石川水は橋より力
足発より火の河に航河より火一面に航一旦河城内
移りしより火の橋及金門の石壁を焼上る將軍家の中
西丸の御所は家樂より火の河に火の河の白くして河大なる
昔々兼日より小笠原佐治と長次より一より自刃陰と
し待津机と腰掛を多くあ人も皆陰と持て修り列舟を
足燈に流火と玉葉と火繩を焚或は空桶と徳と舟
る松焚て修りてあうりもひくも通て河の警へ河麻湊

警固しるより巻く山形兼松に徳も志年松より一は徳
と湯と白舟に丸は火の河をよるも火の河に流河はあめと
在中流に人おひ流火をたす之を西丸に焚きしと山目より
も早く西丸より流火を焚きし長次より一は我流に徳兼日
長次令中世河のとも衛を焚きし形も中々とあ家
長次令衛の地とせんは頗るよく勇士のあ言焼
とも不可為退去ゆり切てを抄りるも徳と山形中
山形より志地ゆりひをと告ゆり中河の豊屋より山
河川の流火を焚きしあまう徳も火の河に流火を焚
すは徳と山形より火の河を焚きし山形より一は徳と兼松
ゆりたひと徳より一は山形より一は徳と兼松

相討ひ死に事多し山内元也も黒相獲ひ討り死に事多し
不之りし事多し軍勢も度希く山内元也も黒相獲ひ討り死に事多し
一の健士尚書の中東法没人一人を悉く度希く踏破りし事多し
又雖も元事も此の法人情も多し踏破りし事多し
千内保井澄法も忠信なりし事多し聖と号し事多し
雖も元事も此の法人情も多し踏破りし事多し
て之有志忠告難弁も此の忠信なりし事多し
然れども言を之に採りし事多し法没を東敵に在
所世の難とも此の法没を東敵に在
事多し各如う言事多し乃大業あり好む洞大産此
内風も危く入事多し事多し内風も危く入事多し

山内元也も黒相獲ひ討り死に事多し
不之りし事多し軍勢も度希く山内元也も黒相獲ひ討り死に事多し
一の健士尚書の中東法没人一人を悉く度希く踏破りし事多し
又雖も元事も此の法人情も多し踏破りし事多し
千内保井澄法も忠信なりし事多し聖と号し事多し
雖も元事も此の法人情も多し踏破りし事多し
て之有志忠告難弁も此の忠信なりし事多し
然れども言を之に採りし事多し法没を東敵に在
所世の難とも此の法没を東敵に在
事多し各如う言事多し乃大業あり好む洞大産此
内風も危く入事多し事多し内風も危く入事多し

東風枝とさうさし海内波をい唐氏麻と刺穿とさき
そん 但今い大業以て後漢と企てりわりのこと
法を金もさき富の厚けりえー 是又天子乃大を
お有りさうわさしたるしゆへの歴て 法漢代の句
ゆ緒中の法を被命りすの先きさうりわるま
そと今事とさるしゆに改をし 幼白をさし誰か非
たの事さき也て有還門して後友天子の喉味 其に閉を啓
ぬきた林さ人の處り歌他人 按る幼白をさしゆに
て正しとたして忠秋徒先君のゆ送命 尚城は沙
りしてゆるまてこびる國とさりけさして皆め何思ひりん危
海の初とさき也 將軍家今年ゆ半を感とさる

のめ有上さ豊屋と潤は出さ高きう 漢化とさる何の
可く作んぬし法長上をほひりうを終
在府法大を旗を法士い大をく連とさるひ担て
ぬ家あみのを本とさるしと 或い志河城古ゆ東處の
しゆをゆ謳況區とさるしゆあ人のゆ忙然として
各方高書ゆゆしゆつとさるま 勇士さるしゆとさる
ゆさ豊屋とさるしゆ人のあだの控失とさるしゆり
えひら法死陰を力ともい杜西九に改りさるま
下馬のまをゆゆゆつとも衛り 是掃魔さる法をさ
百と川年しとさるゆゆ中其ゆゆり 志山大徳元寺利
二葉とさる丹葉山とさる後とさる 志合ん出失とさる

一々宗面を以て重山といひく知介極田伊のと別て敢
てそん人通ずんぬれん大後元にお重山大後をうやと
ひて通う西九所城りく製してんまくら浪死た力
と指する勇士故百人執能といふ列居をう指とてんを
きて牀儿の腰とをて一将存大後元悟てそんを河小
河取掃磨をといひはま山を忠高の切をう事と感
掃磨を赤くあう指す清く丹重く是れ之河川を丸
後取中が勝利を以てしなり切弱なりう若干の大後を月
辛くて電所城りく生てあ良以村をたるとは法として
心の中をうまぬ私を改く掃磨をといふもあ人と存く
河城りく駈乗は山從巻命河の亦も好景園は中なり

けり又松平隆重も忠家い獻佳志留之今日の大元顯周
勤後以科あ人とてうに分け品川を壽めあんとてあ
と原をてい流の介は大小名旗りく是とて人といひ西
城をもうよめをくはを成一切の度と武家の人死
難方別のも危言度大館社佛厨一室も跡をも焦むと
なる洞を唄ひちる追きて近云ん指を原うんといふん
橋中より危言大元流水く溺きて死をまぬぬ叔妻
とけひけをも所うう又舟をう海上に海あり風流ド
或は舟と産成を舟中に入て沈むるを危の津川也
死す之風を放れぬる方ぬ舟をわり中中も多痛
中もきい流系橋の舟も高て迎ゆあまうはあぬ

一 日正 鹿を河に於て人々の通所をせし流よりまゝ未だ谷
火にさそひのあはれを種々の物と焦りて難得者か
少くは海の垢のそとをく分けの川へ流るるや今如く
と起りて物々ほろろと流るるを踏み或は此とあ
貫んぬ泥とせし物々ほろろと何れをや
一 日正 懐かしく風静に己後名残るまう流るる人々
と云 宅と唐古とさきの物とあてて事なれ松屋の空と
ちこそ是は日少きもの乃ち松松と流るる空にして
流布して少多の業と云 大なる空を歴る今谷の流
飲ひ酒宴遊舞のたのしみと云 空にして飲と酒
柳子と丸籠を器せしつはき 因今夫を以て微鏡 如く口

被え造り髪に在序に蓬膚と花えもいふ事 醜つ
しと肩と少袖と擲癩癩悩人の物と云 形男と
古衣大狐籠はまつちあつてのぶし 俯作く音と海
子と云く又舞く人々 人々疎疎行徒病あり
果して氏家士危寺社と業徒と云りてける悦失
影化目と此口と唐け碁目と曲け或は流と追く棒と
屈或は俯作てけるを散男波草徒と具したる能く
異らく女下と不審と云ん
一 日正 今日大なる籠に流せしと云 空にして空の穢穢
一 今日より粥のゆ絶ゆ絶て世をぬぬ粒万の高人等
粥と受く空谷物焼尾りて持多る空の空と云ん

一 以夜新統之元

去字乃之之新統百系核形 似字乃之之統抄六十日形

五以物以紙以紙中沙百大核形 山坐虎者百九核形

山性紙百九核形 山坐虎 新書紙沙百核形 一二三形

大書百四核形 山人紙六核形 一三形

町屋自何以四百形新所十八日所

及紙十二二中一 似字之字一 似字之字一 似字之字一

似字之字一 似字之字一 似字之字一 似字之字一

似字之字一 似字之字一 似字之字一 似字之字一

一 今夜沙城內之核平山標物之

坐石及四形 坐石及四形 坐石及四形 坐石及四形

似字之字一 似字之字一 似字之字一 似字之字一

似字之字一 似字之字一 似字之字一 似字之字一

似字之字一 似字之字一 似字之字一 似字之字一

似字之字一 似字之字一 似字之字一 似字之字一

似字之字一 似字之字一 似字之字一 似字之字一

似字之字一 似字之字一 似字之字一 似字之字一

似字之字一 似字之字一 似字之字一 似字之字一

似字之字一 似字之字一 似字之字一 似字之字一

似字之字一 似字之字一 似字之字一 似字之字一

似字之字一 似字之字一 似字之字一 似字之字一

い介も多しりの以半粒多百粒二百粒のり及具粒多
千粒中入おはるる内大粒十粒小粒九粒焼生
一今度大災を好る

と有りとししと焼く武家世の人をこまきうあしとまきう
武家世の人の方よりあしとまきうとまきうとまきう
牛幼と天災和合しつゝあしとまきうとまきうとまきう
火にけしん肝とけしんはあしとまきうとまきうとまきう
空を飛ぶてんたぐりの豊後あしとまきうとまきうとまきう
焼生と焼くえきととの焼の火と粒を及軍と生焼
えとい丁人の合ひあしとまきうとまきうとまきう
奔るる北のむらやるる富の界と居 旗と一乃粒

成室をまき一所と焼く屋とけしと焼くも 旗と一の粒
焼生人あしとまきうとまきうとまきうとまきう
一二月七粒を及しつゝ元建りし月あしとまきうとまきう
此の行

一 寺坊のあしとまきうとまきうとまきうとまきう 松本と焼く
一 戸田米とあしとまきうとまきうとまきうとまきう
一 一日今度焼死を共死粒海川市と古書あしとまきう
一 二万七と茶もあしとまきうとまきうとまきうとまきう
一 之吊とてはる焼生とまきうとまきうとまきうとまきう
一 性自也とあしとまきうとまきうとまきうとまきう
一 毎月十八九りの焼死人の報及焼生吊をて念佛行

六百五十四卷之御宇
六百五十五卷之御宇

六百五十六卷之御宇
六百五十七卷之御宇

六百五十八卷之御宇
六百五十九卷之御宇

六百六十卷之御宇
六百六十一卷之御宇

六百六十二卷之御宇
六百六十三卷之御宇

六百六十四卷之御宇
六百六十五卷之御宇

六百六十六卷之御宇
六百六十七卷之御宇

六百六十八卷之御宇
六百六十九卷之御宇

六百七十卷之御宇
六百七十一卷之御宇

六百七十二卷之御宇
六百七十三卷之御宇

六百七十四卷之御宇
六百七十五卷之御宇

六百七十六卷之御宇
六百七十七卷之御宇

六百七十八卷之御宇
六百七十九卷之御宇

六百八十年之御宇
六百八十一年之御宇

六百八十二年之御宇
六百八十三年之御宇

六百八十四卷之御宇
六百八十五卷之御宇

六百八十六卷之御宇
六百八十七卷之御宇

六百八十九卷之御宇
六百九十卷之御宇

六百九十二卷之御宇
六百九十三卷之御宇

六百九十四卷之御宇
六百九十五卷之御宇

六百九十七卷之御宇
六百九十八卷之御宇

六百九十九卷之御宇
七百卷之御宇

平内後二河成和因^{一七五〇}河口中村^{一七五〇}今^{一七五〇}河口川井
至^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}

一 河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}

一 河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}

一 河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}

一 河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}

一 河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}

一 河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}

一 河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}

一 河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}

一 河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}

一 河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}

一 河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}河口^{一七五〇}

新嘉坡中風災被災地海布白蓋をとりし、疹掃店
上原安徳花柳京少七、芸事寺光梅寺光閑寺之寺
下道寺大寺以中風災被災地多、誠希と云、山城寺
西原安徳又若く下、松平修平也

- 一 徳共風災の善法、其の旨は、被災地を以て、江原寺を以て
- 一 同日市、上原安徳、赤坂、多城、希と云、山城寺、西原安徳、其の
- 一 七日、先達、善法、其の旨は、被災地を以て、上原安徳、花柳、京、少、七、芸、事、寺、光、梅、寺、光、閑、寺、之、寺、と
- 一 本、行、寺、其、時、此、元、之、人、風、災、被災、地、希、と云、松、平、修、平、也、雲、山、寺、也
- 一 希、今、の、善、法、之、旨、は、被災、地、を、以、て、湯、島、天、神、下、海、高、寺、上、り
- 一 地、之、内、原、安、徳、花、柳、京、少、七、芸、事、寺、光、梅、寺、光、閑、寺、之、寺、と
- 一 西、本、行、寺、其、時、此、元、之、人、風、災、被災、地、希、と云、松、平、修、平、也、雲、山、寺、也

幡隨院抄、其の旨は、被災地を以て、湯島天神下海高寺上り

日記、之を記す

- 一 同日、十八日、集、勅、之、旨、也
- 一 小、山、東、原、安、徳、花、柳、京、少、七、芸、事、寺、光、梅、寺、光、閑、寺、之、寺、と
- 一 主、勅、之、旨、也
- 一 松、平、周、防、寺、其、時、此、元、之、人、風、災、被災、地、希、と云、松、平、修、平、也
- 一 此、地、原、安、徳、花、柳、京、少、七、芸、事、寺、光、梅、寺、光、閑、寺、之、寺、と
- 一 お、お、之、旨、也、中、川、山、城、寺、其、時、此、元、之、人、風、災、被災、地、希、と云、松、平、修、平、也
- 一 堀、原、安、徳、花、柳、京、少、七、芸、事、寺、光、梅、寺、光、閑、寺、之、寺、と
- 一 同日、廿二日、原、安、徳、花、柳、京、少、七、芸、事、寺、光、梅、寺、光、閑、寺、之、寺、と
- 一 新、嘉、坡、中、風、災、被災、地、海、布、白、蓋、を、とり、し、疹、掃、店、上、原、安、徳、花、柳、京、少、七、芸、事、寺、光、梅、寺、光、閑、寺、之、寺、と

惣持等赤柳東七白赤二赤戸白柳等
見此より一七人

一六月六日中根大湯等方を差九つたのち中根方を差
此の患も中根人赤月七の類安友大弟を差九山江
一五七の事との事と患渡日一書申子法本と申あて
喧嘩仕ゆめて彼不少て此と患河程中一程高
お子記申す山江彼五右の山江程中山江と六月廿四日
一此等と患切程申す中書差はて松徒忠なるの彼を中
本村者なる中仁人三退中山江人曰松徒忠なるの赤
山江性記して今程を小書渡文も多し能く記之候を中
本村者なるの山江通し申す山江五右の山江安友大弟進方

一六月廿五日中根大湯等方を差九命等の山江持
と云ふ事

一曰大日大段赤事願申す中根内投言事し候也
小江の紫山持事

一七月九日河内惣兵衛山江丹下松徒忠なる人山江
一而して中根平肥事

一山江と云ふ山江馬山江と云ふ山江山江と云ふ山江
山江虎者山江山江山江山江山江山江山江山江山江

又程山江事

一山江山江永井山江山江山江山江山江山江山江山江
一曰山江山江山江山江山江山江山江山江山江山江

枚本町の辻書とは昔より其後之を傳へて其はた之の昔
大之切をうたひの中書はるりし子と有てたてたるは海子
少てお果し之の昔の書はるりし子と有てたてたるは海子
と有るは有し

一 十月廿日 辰支節 辰支年 言通 辰支年 辰支年 辰支年
辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年
辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年
辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年

一 十月廿七日 今日 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年
辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年
辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年
辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年

以上と云ふ辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年
辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年
辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年

一 同日 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年
辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年
辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年

一 通鑑 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年
辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年
辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年
辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年

一 九月十日 自 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年
辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年
辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年
辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年 辰支年

一 河多壯麗 亦川官
一 河多壯麗 亦川官
一 河多壯麗 亦川官

一 河多壯麗 亦川官
一 河多壯麗 亦川官
一 河多壯麗 亦川官

一 河多壯麗 亦川官
一 河多壯麗 亦川官
一 河多壯麗 亦川官

一 河多壯麗 亦川官
一 河多壯麗 亦川官
一 河多壯麗 亦川官

Blank page with faint horizontal lines and several ink smudges or marks.

Blank page with faint horizontal lines and several ink smudges or marks.

